

平成 22 年度事業報告

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日)

記

1. 第39回タートルマラソン全国大会兼第13回バリアフリーマラソンの実施

- ・実施日 平成22年10月17日（日）
- ・場 所 荒川河川敷コース（東京都足立区）
- ・参加申込者 14,617名、当日参加者 12,542名
- ・種 目 ハーフマラソン、10kmラン&ウォーク、5kmラン&ウォーク、親子マラソン

高齢化社会を突き進んでいる我が国において、高齢者の健康の維持・増進は、社会コスト削減のみならず、積極的な社会参加への基礎となります。当協会は設立以来、高齢者への生きがい作りと高齢者スポーツの振興として、本大会を開催してきました。本大会の特徴は、競技志向ではなく、そのため誰もが参加できる自由な雰囲気があります。その結果、他の各大会に比較して高齢者、超高齢者（75歳～）そして障がい者の参加者数は日本第1位で、これは本大会の大きな特色となっております。

今大会では始めて、もう聾者（3重苦）の藤崎義彦氏の感動的な選手宣誓ではじまり、大きな拍手を頂戴しました。

（藤崎さんは目も耳も不自由なので、触手話や手を触れ合っの手話で情報伝達がなされました）ハンデキャップをお持ちの方々（視覚障がい、知的障がい、内臓疾患など）も、大勢参加され健常者と同じ時間に同じコースを歩き、走り交流を一層深める事が出来たと思います。

1972年にスタートした本大会は、2008年度に1万人を突破して以来、3年連続で1万人を超える大規模な大会に成長してまいりました。

参加者の内訳を見ますと年代別では、ウォーキングの部に参加した94歳の松永茂氏、小俣三郎氏の2名が、最高齢を記録しました。

またハンデキャップをお持ちの方々も、約500名（伴走者を含めると600名以上）と過去最大の参加を頂きました。視覚障がい、知的障がいなどをお持ちの方に加え、内臓疾患を持つ糖尿病の方々も参加され、内容的にも一層充実しました。

2. 練習会・講習会

- 1) 毎月第1日曜日に代々木公園で練習会を開催し、正しいジョギングやウォーキングの方法などを指導しました。併せて健康講話を実施し、健康知識の普及を図りました。

2) 平成 22 年度の講習会は上期講習会 2 回、下期講習会 3 回を国立オリンピック青少年総合センターで開催したほか、県外初の試みとして取手市井野でも講習会を実施しました。とりわけ、6 月と 12 月に実施した視覚障害者向け、健康講話/ストレッチヨガや、筋力づくり・ストレッチ・ジョギング・ウォーキングなど、具体的運動を通じた指導を行いました。このような実習は我が国でもあまり例がなく、参加者並びに伴走者から大変好評を頂きました。

3. その他

1) 厚生労働省の立入り検査

平成 23 年 1 月 25 日（火）に厚生労働省老健局担当者 2 名により、平成 20・21 年度の日本タートル協会の事業について検査がおこなわれました。その結果概ね問題がないというコメントを頂戴しました。

2) 課題

課題としては中、高齢者の生きがいづくり・スポーツとしてのランニング・ウォーキングの理解者を増やすと共に、バリアフリー大会への理解並びに参加を一層促進いたします。

具体的には関東以外の地域とのタイアップも、引き続き重要な課題と考えています。また、新規会員の拡大に向けた活動として、タートル通信のほか、月次練習会、ホームページの更なる充実を図るなども次年度の課題であります。